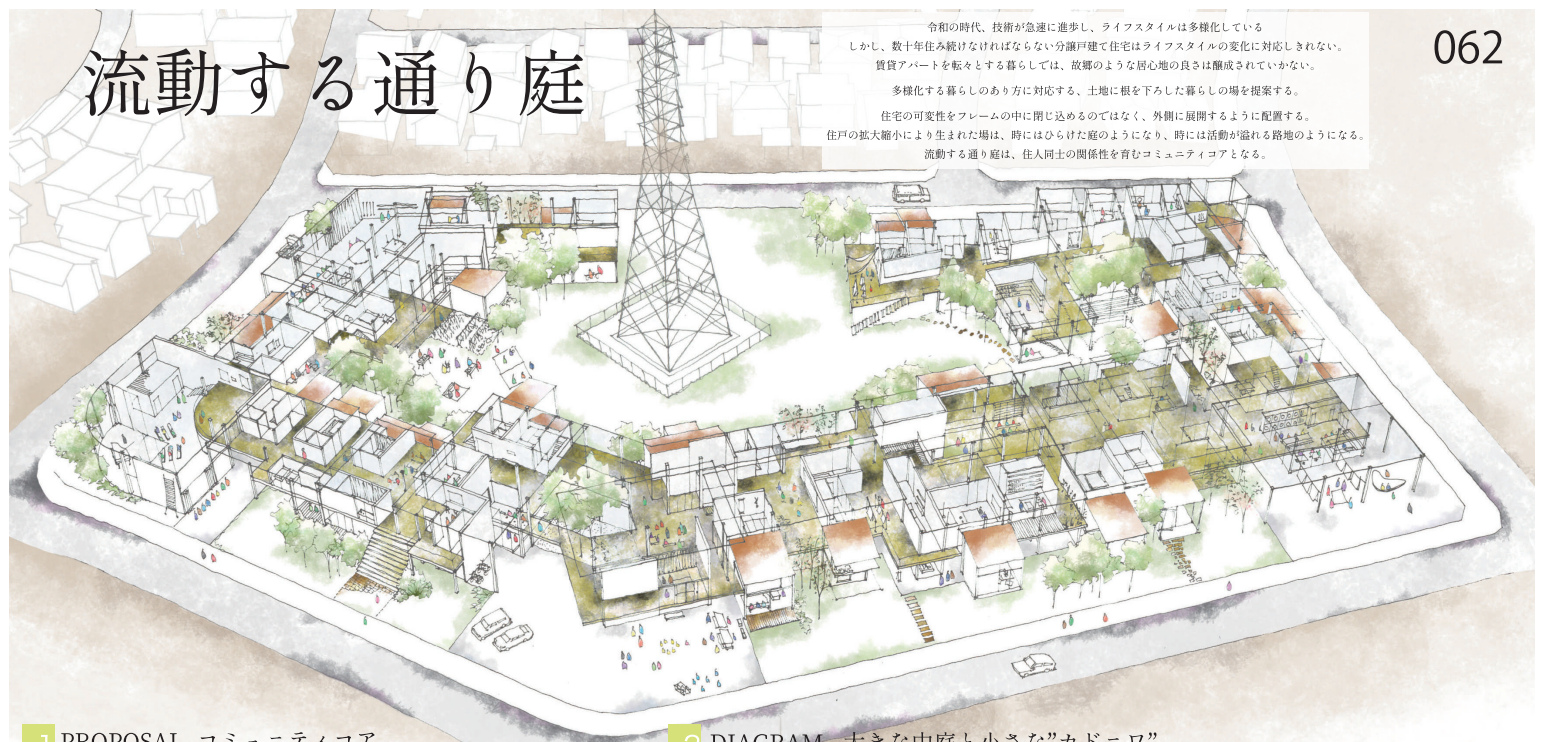


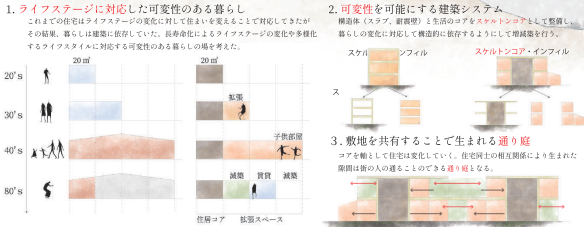
流動する通り庭

令和の時代、技術が急速に進歩し、ライフスタイルは多様化している。しかし、数十年住み続けなければならない分譲戸建て住宅はライフスタイルの変化に対応できない。賃貸アパートを転々とする暮らしでは、故郷のような居心地の良さは醸成されていかない。多様化する暮らしのあり方に対応する、土地に根を下ろした暮らしの場を提案する。

住宅の変異性をフレームの中に閉じ込めるのではなく、外側に展開するように配置する。住戸の拡大縮小により生まれた庭は、時にはひらけた庭のようになり、時には活動が溢れる路地のようになる。流動する通り庭は、住人同士の関係性を育むコミュニティコアとなる。



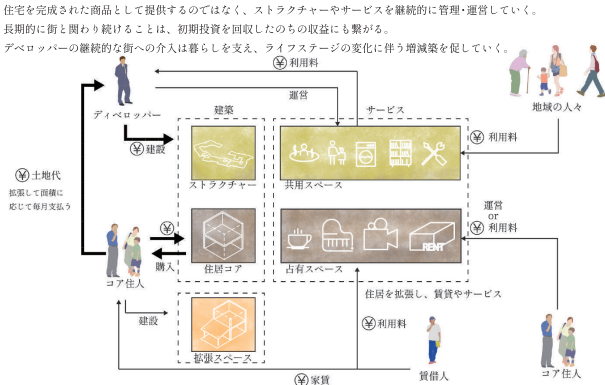
1 PROPOSAL - コミュニティコア



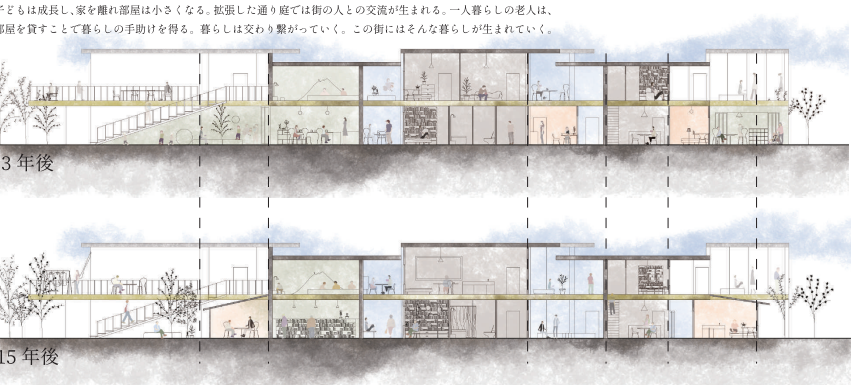
2 DIAGRAM - 大きな中庭と小さな”カドニワ”



3 SYSTEM - 変化を促す有機的な仕組み



4 SECTION S=1/200 - 移り変わる建築と暮らし



5 PLAN S=1/400

